

平成27年12月31日(木)

老球の細道 198

12月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

喪中のハガキがあちこちから届く。私と同年代の知人たちがあいついで逝去。まさに人生は無常迅速。毎日好きなことを精一杯できる幸福をかみしめながらバスケットボールクリニック活動に精進できた。マンネリにおちいらず常に変わり続けたい、来年もまた。

1・読書から

◆「三笠山に登る第一歩。富士山に登る第一歩。同じ一歩でも覚悟が違う。どこまで行くつもりか。どこまで登るつもりか。目標がその日その日を支配する」〈『スポーツジャパン』2015・11-12特別号〉

目標がその人の実力を育てる。目標は夢とは違う。掲げるだけではなく、決意して必ず成し遂げるのものであると思う。高い目標を掲げるには、常に凄いものに触れ続けたい。

2・新聞等のコラムから

◆「体育館の隅からバスケットボールの神様が見ているんだよ」(ウインターカップ初優勝、岐阜女子監督・安江満夫)

努力は才能を凌駕する。努力とは人の見ていないところでがんばることをいう。そのような努力を続けた者にバスケットボールの神様はチャンスの後ろ髪を引く。

◆「多様な人がいることで、社会が豊かになり、才能も育つと捉えることが重要だ。そのためには自文化の発信と異文化理解に丹念に取り組むことが必要だ」(朝日新聞・移民問題)

世界の動向もバスケットボールに影響を与える。今やバスケットボールチームも異文化集団の集まりとなっている。されば、バスケットボールを通じてお互いの理解も深まる。

◆「点数に関係なく、自分自身のスケートを向上させられるかが大切。どの方が見ても素晴らしいと思える演技をしたい」(羽生結弦・朝日新聞)

まさにジョン・ウッデンの成功哲学。他人との競争ではなく、自分自身の最高のパフォーマンスを目指して努力する。敵は我にあり。自分との戦いは永遠に続く。

◆「明日の絶望を憂うよりも、今日一緒にいられることを噛み締める。幸福はこの瞬間にしかない」(『親の老いを受け入れる』書評から)

人生のまともに入った今、死の不安が時折頭をよぎる。限られた人生、1日1日をやりたいことに全力投球しながら死の不安からフアンへ。死を想うから一日をがんばれる。

3・バスケットボール各種クリニックのレジメに挿入した言葉から

◆「スターという職業は、はた目よりも苦しく、つらいものです。いわば毎日が転機であり、危機であるということ。今日の自分に明日は勝つこと(竹中労『完本・美空ひばり』)

まるでバスケットボールコーチの心境である。マンネリ、惰性、学びがなくなった時、明日の自分は現状維持、ぬるま湯の地獄へと落ちていく。そして選手にもその余波が。

◆「スポーツはすべてささいなことから構成されている。そうしたささいなことを無視すれば、最後にできあがってくるものはこれを反映することになるだろう」(ラルフ・サボック『THE COACH』)

スポーツのみならず森羅万象に共通する原理原則。だからこそ「神は細部に宿る」。